



# JSPS Strasbourg Office Quarterly / 2009-10 No. 3

## 日本学術振興会ストラスブール研究連絡センター活動報告

(2009年10月~12月)

ストラスブールでは、11月末からクリスマスまでの期間、フランス最大級のクリスマス市 (Marché de Noël) が開かれ、1年の中で最も多くの観光客が当地を訪れます。アルザス地方は、モミの木のクリスマスツリー発祥の地といわれており、ストラスブールでは1570年からクリスマス市が開催されています。

街の主な広場ではクリスマス市が立ち並び、ツリーに飾るさまざまなオーナメントやオブジェ、クリスマスのお菓子、ホットワインなどが売られ、街はクリスマス一色になります。

今年はストラスブールのクリスマス市が初めて海外に進出し、東京でもクリスマス市が開催されました。



KLÉBER 広場のクリスマスツリー。



GUTENBERG 広場のクリスマス市。



### 学術セミナーの開催

2009年9月から12月までの間に、日仏学会館と共催で、日仏の研究者を招待して、様々なテーマで以下の学術セミナーを開催しました。

#### 9月24日 / 第78回学術セミナー

講演者：Prof. Marcel HIBERT ( Université de Strasbourg )

講演タイトル：「愛の化学」"Chemistry of Love"

筋肉の収縮、痛みなど人間の生理機能は、遺伝子や環境などのコントロールの下での基本的な分子間の相互作用の複雑なコンビネーションととらえることができよう。「愛」についてはどうであろうか。演者は、ギリシア時代に遡って、愛の哲学的定義を披露した後、最新の研究によって、パゾプレッシンやオキシトシンという内在性ホルモンが、母と子の愛、大人の愛などを調節する作用をもつことが明らかになったと解説した。



愛の分子メカニズムについて解説する Prof. HIBERT。

### 10月14日 / 第79回学術セミナー

講演者：佐藤矩行代表研究員（沖縄科学技術研究基盤整備機構）

講演タイトル：「ホヤ：発生生物学研究の新しいモデル動物」” The ascidian *Ciona intestinalis*: an emerging model in developmental biology”

ホヤの幼生を構成する細胞の数はわずか 2600 程だが、頭部には中枢神経系、尾部には脊索と筋肉を備え、我々脊椎動物の体制とほぼ同じ構造をしている。ホヤの1種カタユレイボヤのゲノムを解読したところ、脊椎動物の発生に関わる遺伝子をほぼ全てもつことが分かった。そこで、ホヤの発生の特徴を生かしつつ、発生関連遺伝子の働きや相関関係などを徹底的に調べることが可能となり、現在、ホヤは動物の体づくりのメカニズムを解析する新しいモデルになりつつあることが述べられた。



会場からの質問に答える佐藤教授。

### 10月21日 / 第80回学術セミナー

講演者：Dr. Horst ZWINGMANN( CSIRO Petroleum, University of Western Australia )

講演タイトル：「阪神淡路大震災 - 地震の予測を目指して」”The Great Hanshin-Awaji Earthquake : understanding the timing of earthquakes”

1995年1月17日、兵庫県南部や神戸で起きたマグニチュード7.2の大地震は、阪神・淡路、大阪西部の地域にまで大きな被害をもたらした。日本のいくつかの研究機関は、野島断層地域のドリリング（削岩）プロジェクトを開始し、それは地質学者が *in situ* で活断層プロセスを研究できるというユニークなプロジェクトである。演者は、京都大学の田上高広教授との共同研究、粘土鉱物のアイソトープ年代測定技術を用いた脆弱性断層の絶対年代測定について解説した。



学術セミナー後、講演者の Dr. ZWINGMANN（左から5人目）と参加者。

### 11月26日 / 第81回学術セミナー

講演者：Dr. Jean-Paul Meyer ( Université de Strasbourg )

講演タイトル：「漫画と劇画：日本と西洋の比較」”Manga et bande dessinée : un siècle de convergences entre le Japon et l'Occident”

日本の漫画について、古くは鳥獣戯画からストーリーのある漫画が生まれた明治期にいたるまでの歴史について述べられ、戦後、手塚治虫によって現代の漫画のスタイルが確立されたことを紹介された。また、日本の漫画のフランス語への翻訳の難しさ、日本の漫画とフランスの *Bande dessinée*（バン・デシネ）におけるコマ割りの違いなどを通して、日仏漫画文化の比較分析について述べられた。



日仏漫画文化について解説する Dr. Meyer。



## フランスの大学、グラゼ'コール、研究機関への訪問：JSPS 事業説明会・JSPS 同窓会支部会の実施

当センターは、フランス各地の大学・研究機関を訪問し、大学幹部や研究者と直接に対話をを行い、また、その機会に各地の JSPS 同窓会との交流を深めています。

### 10月1日-2日 / Université Montpellier 2 (モンペリエ第2大学) 訪問

モンペリエ第2大学は、フランス南部ランドック地方の中心都市であるモンペリエ市にあります。現在、モンペリエには、第1大学から第3大学まであり、1222年に創設された医学部に起源を持ちます。その後、芸術学部、法学部が創られ、15世紀のはじめには神学部、1676年には化学部が創設されています。

今回訪問したモンペリエ第2大学は、1968年に制定された高等教育基本法に基づき、1970年に開学し、農学・食品学、生物・生命学、化学、都市・情報理工学、環境基盤学、経営学の学部、大学院、研究所を有しています。また、学生数約15,000名、教員数約1,200名、事務官・技官約800名の規模となっています。

10月1日に、はじめにトリオレ(Triolet)キャンパスを訪問し、Dr. Rémi CARLES(CNRS 研究員、JSPS-OB)のアレンジにより、数理研究所(所長: Prof. Bizan MOHAMMADI)に所属する教職員全体会議の場にて JSPS 事業の紹介を行いました。その後、Prof. Daniele HERIN(学長)、Prof. Eric BUFFENOIR(評議会担当副学長)と懇談し、同大学の概要説明を受けるとともに、JSPS 事業の説明、日仏学術交流について意見交換を行いました。

同日午後には、Dr. Pierre BOURSOT(CNRS 主任研究員、JSPS-OB)の協力のもと、研究者、ポスドク、大学院学生を集めて、JSPS 事業のプレゼンテーションを行ったほか、JSPS-OB 2名による日本での研究及び滞在の経験談が語られました。次いで、同大学地中海・環境研究所(Observatoire de recherche méditerranéen de l'environnement)、進化科学研究所(Institut des sciences de l'évolution)を訪問し、研究所の概要説明を受けた後、各研究室を訪問しました。

翌10月2日には、サン・ブリースト(St. Priest)キャンパスを訪問し、Dr. Joseph GRIL(CNRS 主任研究員、JSPS-OB)の司会により、研究者、ポスドク、大学院学生を集めて、JSPS 事業のプレゼンテーションを行ったほか、JSPS-OB 7名や日本と共同研究を行っている研究者から、日本での研究及び滞在についてのプレゼンテーションが行われました。その後、同キャンパスにあるロボット工学・電子工学研究所(Laboratoire d'Informatique de Robotique et de Microélectronique de Montpellier)を訪問し、同研究所 Prof. Francois PIERROT 副所長から研究所の概要説明を受け、最先端の研究が行われているラボを見学しました。同研究所は、日本との共同研究が盛んで、ロボット工学、木質科学分野の研究者交流が活発に行われています。

さらに同日午後には、Dr. Robert PASCAL(CNRS 主任研究員)のアレンジで、生物分子研究所を訪問し、日本との関係が深い Prof. Auguste COMMEYRAS(同大名誉教授)、Prof. Herve COTTET(同大教授)の研究室を見学しました。

また今回の訪問では、Prof. Christoph JUNG(同大教育担当副学長)出席のもと、当地の JSPS 同窓会員との親睦会を開催し、JSPS-OB との交流を深めました。



モンペリエ第2大学学長表敬訪問(Prof. Daniele HERIN 学長(右から2人目))



トリオレ(Triolet)キャンパスでの JSPS 事業プレゼンテーション。





国立遺伝学研究所での研究生活を語る Dr. Pierre BOURSOT (CNRS 主任研究員、JSPS-OB)。



静岡大学での研究生活を語る Dr. David MAINPRICE (CNRS 主任研究員、JSPS-OB)。



日本での研究生活を語る Dr. Remi CARLES (CNRS 研究員、JSPS-OB)。



サン・プリースト (St.Priest) キャンパスでの JSPS 事業プレゼンテーション。



JSPS OB 7 名 による日本での研究生活のプレゼンテーション (サン・プリースト (St.Priest) キャンパス)。



京都大学での研究生活を語る Dr. Joseph GRIL (CNRS 主任研究員、JSPS-OB)。



京都大学での研究生活を語る Dr. Sandrine BARDET (モンペリエ第 2 大学研究員、JSPS-OB)。



京都大学での研究生活を語る Dr. Bruno CLAIRE (CNRS 研究員、JSPS-OB)。



名古屋大学での研究生活を語る Dr. Tancrede ALMERAS (CNRS 研究員、JSPS-OB)。



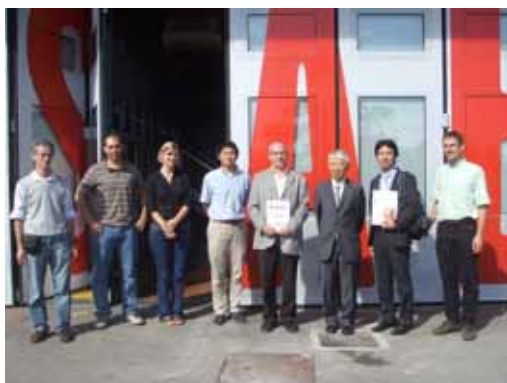
サマープログラムでの経験を語る Dr. Julien COLMARS (モンペリエ第 2 大学研究員、JSPS-OB)。



京都大学での研究生活を語る Dr. Jullien DELPHINE (モンペリエ第 2 大学研究員、JSPS-OB)。



日本での研究生活を語る Dr. Sebastien KRUT (モンペリエ第 2 大学研究員、JSPS-OB)。



ロボット工学研究所訪問 ( Prof. Francois PIERROT 同研究所副所長 (右から 4 人目) Dr. Joseph GRIL (CNRS 主任研究員、JSPS-OB、左端) Dr. Bruno CLAIRE (CNRS 研究員、JSPS-OB、右端) Dr. Mitsuhiro HAYASHIBE (INRIA 研究員、左から 4 人目) らと)。



トリオレ (Triolet) キャンパスにある進化科学研究所訪問。( Dr. Pierre BOURSOT (CNRS 主任研究員、JSPS-OB (右端))。

École Centrale de Lyon は、リヨンの産業界、教育者、名士たちによって 1857 年に“École centrale lyonnaise”として創設され、1947 年に国立学校となりました。その後、1967 年にキャンパスがリヨン郊外の Ecully 市に移転され、1970 年に現在の“École Centrale de Lyon”に校名が変更されました。2007 年には、創立 150 周年を迎えるとともに、リヨンにある大学やグランゼコール 20 校からなる「PRES "Université du Lyon"」(2007 年創立)のメンバーになっています。理工学系のグランゼコールですが、カリキュラムには人文・社会科学科目もあり、マネジメント力のある高度エンジニアの育成に取り組んでいます。教員数 168 名、学生数 1,270 名、博士課程学生 170 名の規模を有し、創設時から産業界との関係も深く、エンジニアの称号を取得後、学生の 80%は企業へ就職します。また、国際交流も活発で、海外の大学・研究機関と 160 の交流協定を締結しており、キャンパスでは 40 カ国 400 名の留学生が学んでいます。日本との交流では、特に東北大学と研究・学生交流が盛んで、15 年以上前から共同研究をされています。2005 年からは、修士のダブル・ディグリー制度が開始され、2008 年には JSPS の Core-to-Core Program も活用し、École Centrale de Lyon、東北大学、CNRS、INSA Lyon (国立応用科学院) 4 者によって“ELyT Lab”と呼ばれる共同研究所が設立されました。また同校は、東京大学、京都大学、神戸大学、筑波大学、同志社大学、慶應義塾大学、日産、トヨタ、IHI、JEOL、NIPPON OIL など、日本の大学、企業と交流を行っています。

今回の訪問では、Prof. Patrick BOURGIN (学長、JSPS-OB)、Prof. Jean-Pierre BERTOGLIO (研究担当副学長)、Dr. Philippe KAPSA (CNRS 主任研究員、ELyT Lab フランス側所長)と面談し、École Centrale de Lyon および ELyT Lab の概要説明を受け、同校がローヌ・アルプ地方のいくつもの産業クラスターに積極的に参加している様子が伺えました。続いて、研究者、博士課程の学生に対して学術振興会の事業説明会を行うとともに、JSPS-OB である BOURGIN 学長や Dr. Frédéric GILLOT (École Centrale de Lyon 講師) から日本で研究生活や経験談が語られました。さらに、トリボロジー・システム力学研究所 (Laboratoire de Tribologie et Dynamique des Systèmes (LTDS))、ナノテクノロジー研究所 (Institut des Nanotechnologies de Lyon) を訪問し、各研究室長から研究の概要説明を受けるとともに、研究施設を見学しました。



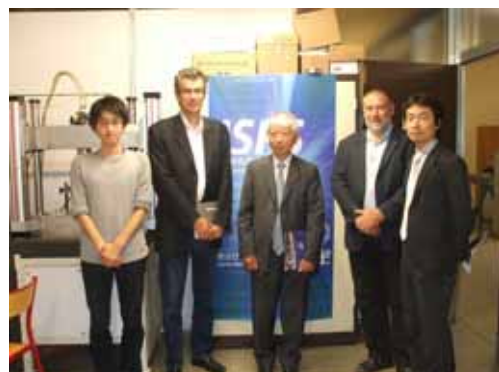
Prof. Patrick BOURGIN 学長 (中央) と。事務本部棟前にて。



JSPS 事業のプレゼンテーション。



JSPS-OB の Dr. Frédéric GILLOT による東京大学での研究生活のプレゼンテーション。



トリボロジー・システム力学研究所訪問。Prof. Denis MAZUYER (LTDS 研究所長、左から 2 人目)、Dr. Philippe KAPSA (CNRS 主任研究員、ELyT Lab フランス側所長、右から 2 人目)、JSPS の Core-to-Core Program を利用して共同研究を行っている東北大学修士課程 間々田圭介氏 (左端) らと。



## 10月8日 / Université Lumière Lyon 2 訪問

リヨン市では 1835 年に理学部、1838 年に文学部、1874 年に医学部、1875 年に法学部が相次いで設立され、1896 年にこれらの学部を集めて Université de Lyon が創設されました。そして、1968 年に制定された高等教育基本法に基づき、Université de Lyon は再編成され、法学部、人文科学部を持つ Université de Lyon 2 が誕生しました。1987 年には Université Lumière Lyon 2 と改名され、現在は人類社会学部、法・政治学部、歴史地理学部、言語学部、文学部、経済経営学の学部、大学院、研究所で構成され、学生数約 27,000 名、教員数 976 名、事務官・技官 444 名の規模を有しています。また同校は、「PRES "Université du Lyon"」(2007 創立)に属しています。

今回の訪問では、Prof. Nathalie FOURNIER (研究担当副学長)と面談し、Université Lumière Lyon 2 の概要説明を受け、2009 年同校と Ecole Normale Supérieure Lettres et Sciences Humaines (ENS-LSH) が、東北大学法学部と博士のダブル・ディグリー制度を開始したこと、また 1998 年には Institut d'Asie Orientale (アジア・オリエント研究所 (Université Lumière Lyon 2、ENS-LSH、CNRS による合同研究所))と東京大学社会科学研究所が学术交流協定を締結して盛んに研究者交流を行っていること、同校が中央大学、専修大学、早稲田大学、福岡大学、関西学院大学、学習院大学と学术交流を行っている様子が伺えました。その後、研究者、博士課程の学生に対して学術振興会の事業説明会を行いました。また、JSPS-OB である Dr. Béatrice JALUZOT (同大学助教授)から日本での研究生活や経験談が語られたあと、JSPS 事業についての質疑応答および意見交換を行いました。



JSPS 事業のプレゼンテーション。



Prof. Nathalie FOURNIER 研究担当副学長による大学概要説明。



JSPS-OB の Dr. Béatrice JALUZOT による東京大学での研究生活のプレゼンテーション。

## 11月10日 / Université de Rennes 1 訪問

レンヌ第 1 大学は、フランス北西部ブルターニュ地方の中心都市であるレンヌ市にあります。レンヌ第 1 大学は、1461 年にナント市に創設された大学に起源を持ちます。1735 年にブルターニュ地方の本議会があったレンヌ市に法学部が移転し、その後 2 世紀の間に、医学部、文学部、理学部が創設されました。ちなみにレンヌ市と仙台市は、2007 年に姉妹都市締結 40 周年を迎えています。

今回訪問したレンヌ第 1 大学は、1968 年に制定された高等教育基本法に基づき、1971 年にこれまでのレンヌ大学が改組され、医学、薬学、理工学、法学、経済学の学部、大学院、研究所を有する大学として開学しました。現在、レンヌ第 1 大学では、学生数約 23,000 名、教員数約 1,700 名、事務官・技官約 1,000 名が在籍しています。

今回の訪問では、Prof. Claude LABIT (研究担当副学長)、Prof. Jean Jacques DURAND (国際担当副学長)と面談し、レンヌ第 1 大学の概要説明を受け、東北大学と盛んに学术交流を行っていることが伺えました。また、JSPS-OB である Dr. Henri DOUCET (CNRS 主任研究員)の司会のもと、研究者、博士課程の学生に対して学術振興会の事業説明会を行い、その後、JSPS-OB 8 名による日本での研究及び滞在についてのプレゼンテーションのほか、日本と共同研究を行っている研究者からも日本との共同研究の魅力について述べられました。

同日午後には、同キャンパス内にある国立レンヌ高等化学研究所（École Nationale Supérieure de Chimie de Rennes）を訪問し、同研究所の Dr. Loic LUMIEGRE 講師（JSPS-OB）から研究所の概要説明を受け、同講師の研究室を見学しました。続いて、レンヌ第 1 大学の化学研究所、物理学研究所を訪問し、各研究室長から研究の概要説明を受けるとともに、研究施設を見学しました。

また今回の訪問では、Prof. Pierre DIXNEUF（同大名誉教授、JSPS-OB）をはじめ、当地の JSPS-OB 5 名の出席のもと、JSPS 同窓会員との親睦会を開催し、交流を深めました。



JSPS 事業のプレゼンテーション。



Prof. Marie-Claire LETT JSPS フランス同窓会長による同窓会事業のプレゼンテーション。



東京大学での研究生生活を語る Dr. Loic LEMIEGRE（ENSCR 講師、JSPS-OB）。



滋賀医科大学での研究生生活を語る Dr. Patrick BAUCHAT（レンヌ第 1 大学講師、JSPS-OB）。



東京大学での研究生生活を語る Dr. Michel GROS（CNRS 研究員、JSPS-OB）。



日本の大学や国立研究機関との研究交流を語る Prof. Eric COLLET（レンヌ第 1 大学教授）。



産業技術総合研究所や理化学研究所での研究生生活を語る Dr. Olivier CADOR（レンヌ第 1 大学講師、元 STA フェロー）。



物質・材料研究機構での研究生生活を語る Dr. Fabien GRASSET（レンヌ第 1 大学准教授、JSPS-OB）。



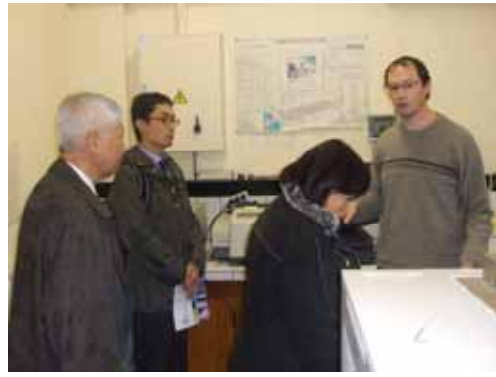
日本の化学者との学術交流を推進する Prof. Pierre DIXNEUF（レンヌ第 1 大学名誉教授、JSPS-OB）。



名古屋大学での研究生生活を語る Dr. Henri DOUCET（CNRS 主任研究員、JSPS-OB）。



Prof. Claude LABIT 研究担当副学長（右端）、Prof. Pierre DIXNEUF（JSPS-OB）（左から2人目）、Dr. Henri DOUCET（CNRS主任研究員、JSPS OB）（右から2人目）らにJSPS事業を説明する中谷センター長（右から3人目）。



国立レンヌ高等化学研究所（Ecole Nationale Supérieure de Chimie de Rennes）訪問。（Dr. Loic LEMIEGRE 講師（JSPS-OB（右端））。

### 11月19日 / Université de Picardie Jules Verne 訪問

ピカルディー大学は、フランス北部ピカルディー地方の中心都市であるアミアン市にあります。同市は、フランス最大の規模を誇り、ゴシック様式の代表作ともいえるノートル・ダム大聖堂があることでも有名です。ピカルディー大学は、1960年代に工学部、医学部、人文学部、理学部、法経学部が順次設立され、1968年にアミアン大学が創設されました。その2年後の1970年にピカルディー大学と改名され、さらに1991年には小説家のジュール・ヴェルヌにちなんで、ピカルディー・ジュール・ヴェルヌ大学と改名されました。これは、ジュール・ヴェルヌがその生涯の多くをアミアンで過ごしたことによるものです。

今回訪問したピカルディー・ジュール・ヴェルヌ大学は、人文社会学、経済学、歴史地理学、言語・文化学、法政治学、数学・コンピュータ科学、医学、薬学、芸術学、理工学、スポーツ科学の学部、大学院、研究所を有し、学生数約23,000名、教員数約1,200名、事務官・技官約800名が在籍しています。

今回の訪問では、Prof. Saïd KAMEL（研究担当副学長）、Prof. Christian MASQUELIER（科学・健康研究科科長）と面談し、ピカルディー・ジュール・ヴェルヌ大学の概要説明を受けるとともに、「エネルギー貯蔵・変換のためのマテリアル（Matériaux pour le stockage et la conversion de l'énergie）」をテーマとした修士課程がErasmus Mundus（エラスムス・ムンドゥス：少なくとも3つのEUの高等教育機関がコンソーシアムを作り、優れた内容の共同修士プログラムを企画・実施するもの）に選ばれていることを伺いました。また、JSPS-OBでもあるProf. MASQUELIERの司会のもと、研究者、博士課程の学生に対して学術振興会の事業説明会を行い、その後、JSPS-OB3名による日本での研究生生活や経験談が語られました。

同日午後には、同キャンパス内にある化学研究所、植物・昆虫学研究所を訪問し、各研究ユニット長から研究の概要説明を受けるとともに、研究施設を見学しました。訪問時は、フランス高等教育・研究省の推進する「科学の祭典（Fête de la Science）」週間にあたり、同大学でも一般市民に研究成果を公開すべく準備が進められていました。



木戸場副センター長によるJSPS事業のプレゼンテーション。



左から、Dr. Valéry BOURNY（JSPS-OB）、Dr. Karine SORLIN（JSPS-OB）、中谷センター長、Prof. Saïd KAMEL 研究担当副学長、Prof. Christian MASQUELIER（JSPS-OB）らと。





東京理科大学、名古屋大学での研究生生活を語る Dr. Karine SORLIN(ピカルディー大学講師、JSPS-OB)



名古屋大学での研究生生活を語る Dr. Valéry BOURNY (ピカルディー大学講師、JSPS-OB)



大阪大学、産業技術総合研究所での研究生生活を語る Prof. Christian MASQUELIER (ピカルディー大学科学・健康研究科科长、JSPS-OB)

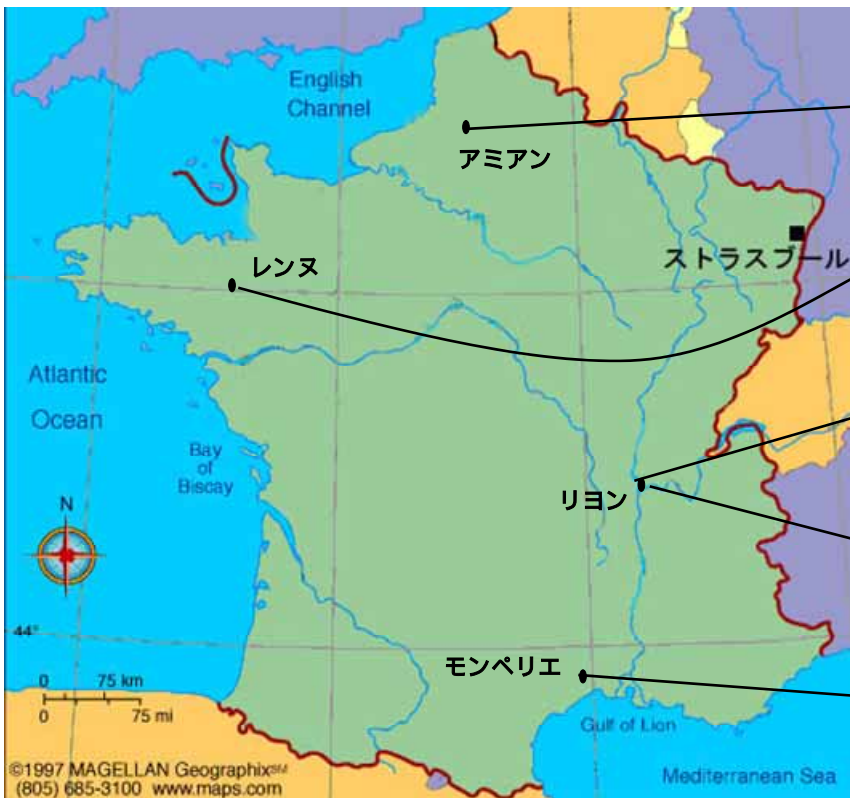


植物・昆虫学研究所訪問。「科学の祭典」週間の準備について説明する Prof. Eric GONTIER (同大学教授、研究ユニット長)(右端)



Prof. Christian MASQUELIER(右端) Dr. Valéry BOURNY(JSPS-OB)(右から3人目) Dr. Karine SORLIN (JSPS-OB)(左端)らと意見交換。

2009年10月から2009年12月までに、4つの都市を訪れました。訪問に当たっては、現地のJSPS同窓会メンバーの協力のもとに、各地の大学でJSPS事業について理解を深めて貰い、日本との交流についての意見交換を行うとともに、特色ある研究所の訪問を行っています。





## 日本の大学、研究機関等の国際化事業への協力、仏側対応機関、日仏大学会館、在ストラスブール日

### 本国領事館等との連携・協力

当センターでは、フランスにおけるこれまでの活動によって得られた情報、ネットワークの資産を活かして、日本との学术交流に興味のあるフランスの大学、研究機関からの照会に応じています。また、学生レベルでの日仏交流を促進する日仏大学会館が主催する事業にも参加・協力を行うとともに、CNRS などフランス側対応機関、在ストラスブール日本国領事館との緊密な協力関係の構築に努めています。

### 9月22日-23日 / Institute of Biological Sciences (CNRS) 主催 “French-Japanese Workshop on Life Sciences” に参加 (その2)

パリの CNRS 本部にて 9 月 22 日、23 日の 2 日間にわたり、CNRS の Institute of Biological Sciences 主催による “French-Japanese Workshop on Life Sciences” が開催されました。第 2 日目のフランスにおける JSPS 事業紹介プログラムの中で、7 名の JSPS-OB から日本での研究生活や経験談、および 1 名の元 JSPS 海外特別研究員からフランスの研究生活や経験談が語られ、会場の雰囲気盛り上げるとともに、JSPS 国際事業の一層の理解に貢献しました。



東京大学での研究生活を語る Prof. Marie-Claire LETT (ストラスブール大学教授、同窓会会長)



京都大学での研究生活を語る Prof. Brigitte SENUT (国立自然歴史博物館教授)



東京水産大学での研究生活を語る Prof. Catherine MARIOJOULS (パリ農業科学大学教授)



鹿児島大学での研究生活を語る Dr. Francis MINVIELLE (INRA 主任研究員)



東京大学での研究生活を語る Dr. Paul-Emile POLENI (CNRS ポスドク)



サマープログラムでの経験を語る Dr. Jean-Philippe CHAMBON (ピエール・マリー・キュリー大学准教授)



京都大学との共同研究について語る Dr. Damein BAIGL (エコール・ノーマル・シュペリエール)



ストラスブール大学での研究生活を語る近藤次郎博士。

10月21日 / 在ストラスブール日本国総領事館の軽部洋総領事が来所され、Marie-Claire LETT 日仏大学会館長と中谷センター長へ着任のご挨拶がありました。その後、中谷センター長より当センターの事業説明を行いました。



軽部総領事 (左から 2 人目)、齋藤領事 (左端)、Marie-Claire LETT 日仏大学会館長 (中央) らと。

11月4日 / 日本学術振興会より村田直樹理事、大場博哉専門職員が来所され、中谷センター長から当センターの事業活動の説明、また Marie-Claire LETT 日仏学会館長から会館の概要説明を行うとともに、日仏研究者交流について意見交換を行いました。その後、村田理事、大場専門職員はストラスブール大学の Prof. Eric WESTHOF 研究担当副学長を表敬訪問され、当センターのメンバーが同行しました。



村田理事（右から3人目）大場専門職員（右端）Marie-Claire LETT 日仏学会館長（左から3人目）らと。

11月17日 / 中谷センター長がパリ CNRS 本部を訪問し、Prof. Gilberte CHAMBAUD（CNRS 科学研究所所長）Dr. Michel MENU（Louvre 研究所研究部長）と次年度フォーラムについての打ち合わせを行いました。

11月20日 / JSPS BRIDGE 選考委員会を開催し、今年度のフェロースhip候補者を選出しました。

11月30日 / 北陸先端科学技術大学（JAIST）の加藤幹彦事務局次長、古畑薫企画課長、荒木良江総務課係長（元ストラスブール研究連絡センター国際協力員）が来所され、中谷センター長より当センターの事業説明を行い、日仏学術交流について意見交換を行いました。またこれに先立ち、訪問団はストラスブール大学の Nathalie VINCENT 事務局次長を訪問され、中谷センター長が同行しました。



加藤事務局次長（左から3人目）古畑企画課長（左から4人目）荒木係長（右から3人目）Marie-Claire LETT 日仏学会館長（右から2人目）らと。

11月30日 / CNRS の Frédéric BENOLIEL 氏（国際部長）Monique BENOIT 氏（Asia-Pacific 担当）が来所され、2010 年度外国人特別研究員（欧米短期）第1回選考会を開催しました。



合同選考会の様子。Frédéric BENOLIEL 氏（右から2人目）、Monique BENOIT 氏（右端）。



